

瀬戸やきもの交流地区

(愛知県瀬戸市)

計画期間 平成17年～21年

面積 253ha

交付対象事業費 2,420.5百万円

市人口 131,925人(地区内人口 12,452人)

ポイント 「やきもの」をキーワードとし
人・モノ・情報の交流を目指す。

地区概要 魅力と躍動感あふれるまちづくりを目指し、「せともの文化」の蓄積を利用してまち全体を美術館・博物館に見立てた「せと・まるっとミュージアム」を進め、国内外からの観光客の増大とリピーターの定着を目指します。

目標 せと・やきもの世界大交流

～世界のやきもののネットワーク拠点 産業観光都市づくり～

産業資源を活用した産業観光の振興

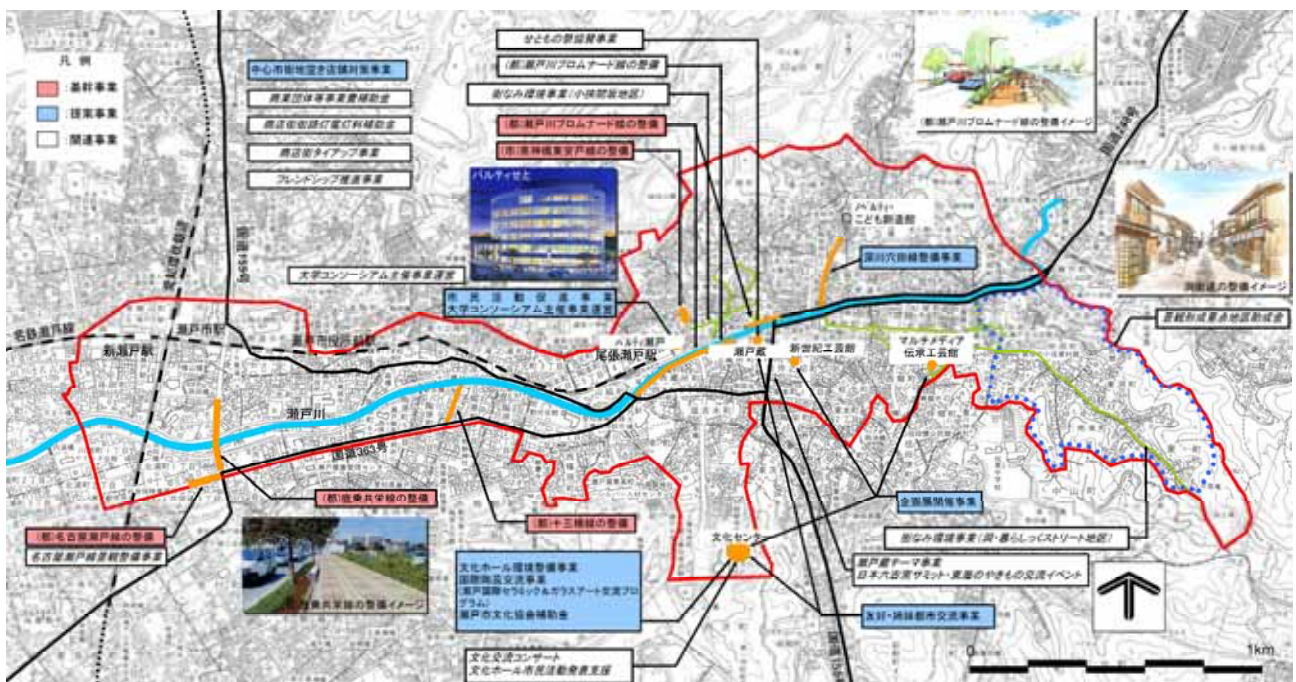
地域の活性化

指標 まちの活気と賑わいを取り戻すため、歴史と文化のある「せともの」のまちとしてまち全体を美術館・博物館に見立て観光客増加並びに継続性のあるまちづくりのためのNPO法人数の増加を目標としました。

| | | |
|--------|-------------|-------------|
| 観光客数 | 180万人 (H15) | 250万人 (H21) |
| NPO法人数 | 9団体 (H15) | 20団体 (H21) |
| 景観形成施設 | 16件 (H15) | 60件 (H21) |

事業内容 基幹事業(1,669百万円)
提案事業(698百万円)

道路(幅員30m～28m・延長453m、幅員16m・延長130m、800㎡)
文化ホール環境整備、中心市街地空き店舗対策、市民活動促進、道路環境整備(延長240m) 瀬戸国際セラミック&ガラスアート交流プログラム、企画展開催、瀬戸市文化協会補助、友好・姉妹都市交流事業、大学コンソーシアム主催事業運営



地区の現況と課題

瀬戸やきもの交流地区は、瀬戸川と名鉄瀬戸線が平行して東西に走り、これらを挟む丘陵地に都市的形態を整え発展してきた地区です。中心部ではせとものを扱う商店街が立ち並びとともに、やきものをテーマとした瀬戸蔵ミュージアムなどの施設が点在し、地区の東側ではやきもの製作の工房が集中する街並みが形成されています。また、地区の西側では、名鉄瀬戸線と愛知環状鉄道の結節点となっており、公立病院や図書館等の公共施設が立地しています。

近年の景気低迷による陶磁器産業の不振により、地域の活力が低下しており、魅力と躍動感あふれるまちづくりを実現する必要があります。

提案事業の特徴

中心市街地空き店舗対策

経営者の高齢化や不景気により歯抜けとなった商店街に活気を取り戻すために新たに出店者を募集し、店舗の改装費を補助する仕組みをつくりました。

深川穴田線整備事業

地区中心部にある子供向けのやきもの創作施設であるノベルティー子供創造館への歩道設置が急務となりました。即効的対策としてノベルティー子供創造館への道路に併走する河川の伏せ越しにより歩車道の分離を図り歩道の確保をします。

計画策定プロセス

友好・姉妹都市交流事業

平成 17 年に愛・地球博が開催されたことにより、瀬戸市の位置や「やきもの」について一般に広く認識してもらう機会に恵まれました。これにあわせて友好・姉妹都市交流を活発に行い、陶芸や絵画を中心とした作品展を市内各施設で催しました。

大学コンソーシアム主催事業

愛・地球博に関連したイベントとして大学コンソーシアム主催で開催した講座の波及効果が、新たな講座参加やイベントへの一般者の参加数増加に寄与しています。

市民活動促進事業

本事業によりNPO活動の促進や発展が継続しています。

瀬戸市長増岡錦也氏のコメント

瀬戸市では、「やきもの」をキーワードとした人、モノ、情報の世界的スケールでの交流を目指しています。まち全体を美術館・博物館に見立てた「せと・まるっとミュージアム」を展開し、やきものに係る既存施設を市民活動等の協力により有効に活用していきます。「やきもの」に関わる豊富な産業観光資源により国内外の観光客の増加と定着化を目指していますが、これとともに安全で快適な移動空間の整備も進め、中心市街地や地域コミュニティの活性化を図っていきます。



新しい街並みを行きかう人々



新しい店舗の開店を祝うセレモニー



活発に展開された友好姉妹都市交流



市民活動会議の様子